

福島県会津若松市へのインタビュー

会津若松市は昨年11月にどぶろく特区の認定を受けました。今年10月には農家民宿1件が製造免許を取得し、今月から販売をはじめました。既に多くのどぶろくが存在する中、会津若松市が見出したどぶろくの可能性や期待について、市企画政策部職員の方と農家民宿経営者にお話を伺いました。

どぶろくに寄せる期待とその可能性

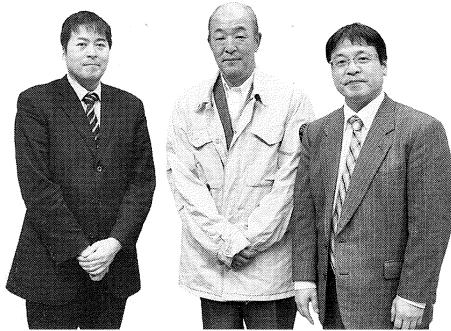
どぶろくについて先進地視察や調査を進めると、造り手はおいしいどぶろく造りに一生懸命に取り組まれていますが、ほかの方との連携が不足していると感じました。個人の努力では様々な面で限界があります。どぶろくは、行政も含めた異業種連携の中でその可能性が広がり、魅力的な地域資源として育てていけると考えています。

本市では今年4月に、商工会、食改、農家民宿と市による「どぶろく特区河東地域振興協議会」を組織しました。協議会を核として、どぶろく自体の質の向上と関連商品の開発や販路拡大、さらに近隣のどぶろく特区認定自治体と交流・連携を進めています。こうした異業種交流・

連携の基盤が整備されることは、どぶろくに限らず地域経済に新たな可能性をもたらし、今後の地域づくりにも好影響が期待できます。

農家民宿主人の谷さんの思い

会津に人を呼び活気を取り戻したい。そして自分子どもがここに住み続けられるように環境を整えたいと思い、どぶろく造りを始めました。



市企画政策部
天野孝之さん

農家民宿茶葉木庵
谷邦弘さん

市企画政策部
阿部隆行さん

Workshop & Presentation

どぶろく研修会と新酒発表会

研修会

11月28日、あすで、特区認定10周年を記念して「どぶろくを活用した地域振興研修会」が行われ、県内外から約30名が参加しました。

山形県工業技術センター石垣浩佳酒類研究科長が講師となり、糖化・発酵の仕組み、温度や精米歩合の違いによる味への影響などの講演が行われました。

その後、町内のどぶろく杜氏2名と関連商品を製造販売する(株)香月椿店の味田さんによる事例発表が行われました。3名は、それぞれの立場で自身が経験した特区認定当時の盛り上がりぶりやどぶろくがもたらした効果、商品開発秘話などを映像や実際の商品を示しながら、発表しました。

新酒発表会

同日の夕方、いいで旅館で「どぶろく新酒発表会」が行われました。町内外から120名ほどが出席。乾杯前に杜氏から、この日準備された飯豊の

どぶろく5種類について紹介がありました。さらに、研修会に参加した他市の杜氏たちから6種類のどぶろくが提供され、華やかな新酒発表会となりました。

主催は、両会とも東洋のアルカディア郷どぶろく連絡協議会（伊藤浩一朗会長）です。



(株)香月椿店
味田 美代子さん

(株)緑のふるさと公社
高橋 千佳さん

(有)いいで旅館
山口 剛さん